

■森森和 実業家。国産技術振興と電気の原料化で、新興財閥森コンツェルンの総帥となるも、戦時体制の犠牲に。

もりのぶてる

秩父事件・1884= 千葉県夷隅郡守谷で、網元の傍ら海産物仲買・雑貨販売する森為吉の長男に生まれる。母は満都。

2人の弟、4人の妹ができる間、学問に親しみ政治に関心をよせる父のもとに育ち、

帝国憲法発布1889= 5歳 :

郡司千島探検1893= 9歳 :

日清戦争始・1894=10歳 :

子規句歌革新1898=14歳 : 高等小学校を卒業すると、父の始めたかじめ焼き(粗製ヨード製造)に従事、

ピアノ国産化・1900=16歳 : 母親が死去したため、進学を断念、

教科書疑獄・1902=18歳 :

日露戦争始・1904=20歳 : 日露戦争が始まるとヨードの需要が高まり、徴兵検査は乙種合格で出征を免れて、家業発展、

日露戦争終・1905=21歳 : 近村の豪農の娘と結婚、

韓国反日暴動1907=23歳 : 長男が誕生。以後、6男6女をもうける。

アヲチ 創刊・1908=24歳 : *近隣のヨード業者を糾合して、{総房水産}を設立し、営業部長。

大逆事件判決1911=27歳 : {安房水産}を合併、これが縁で鈴木三郎助(味の素の創業者)を知る。

明治天皇没・1912=28歳 :

第一次大戦始1914=30歳 : <第一次世界大戦始>で、輸入が途絶したヨード事業は急成長、

21ヶ条要求・1915=31歳 : {南総水力会社}を設立して取締役就任、

ロシア革命・1917=33歳 : 海外に輸出するまでになるが、

本格政党内閣1918=34歳 : 大戦が終わると反動不況で、一転経営危機に陥り、

ベトナム条約・1919=35歳 : *鈴木三郎助が経営する{東信電気}に{総房水産}を吸収合併してもらい、同社の取締役に就任、

大暴落・1920=36歳 : 千曲川発電所建設部長として現地に赴き、地元を説得して、

原敬首相暗殺・1921=37歳 : 4つの発電所を完成させ、{東信電気}に莫大な利益をもたらし、

関東大震災・1923=39歳 : 高瀬川発電所建設部長となって、難事業を完成させる。

護憲三派圧勝1924=40歳 : ヨード暴落の際に各省を廻った経験から、政治家を志し、衆議院議員に当選するが、野心無く、

日本時代始・1926=42歳 : {日本沃度}創立。

金融恐慌・1927=43歳 : {東信電気}専務取締役となり、阿賀野川鹿瀬発電所・豊実発電所建設に当る。

共産党事件・1928=44歳 : この結果、不況とともに過剰電力が生じ、{東信電気}と{東京電燈}の折半出資で{昭和肥料}を設立、

世界恐慌・1929=45歳 :

満州事変・1931=47歳 : 国産技術(東京工業試験所法)・国産機械装置で、初めて硫酸製造に成功。

五一五事件・1932=48歳 : 総選挙で当選するも、実弟に議席譲るべく辞退し、以後、事業に専念。

帝人疑獄事件1934=50歳 : *{日本沃度}を{日本電気工業}と改称するとともに、明礬石を原料とする国産初の金属アルミニウムの工業化にも成功した。こうした成功の背景には、国産技術振興という経営理念と、電気原料化という基本戦略があったといわれている。成功した肥料・アルミニウムを軸に電気化学工業に展開する一方、金輸出再禁止後の為替下落や軍需による景気上昇に乗って電力業・鉱業などに多角化、森コンツェルンを形成したが、戦時統制が強化されるに従い森の経営にも制限が加えられるに至る。

日中戦争始・1937=53歳 : {硫酸肥料製造組合}理事長と{硫酸販売株式会社}社長に就任。

健保+総動員 1938=54歳 :

第二次大戦始1939=55歳 : アルミニウム増産のために、平和産業であった肥料製造部門の資金・電力を振り向けるべく{昭和肥料}を{日本電気工業}に合併、{昭和電工}を設立したが、

大政翼賛会・1940=56歳 : *国策会社たる{帝国アルミニウム統制株式会社}の理事長に祭り上げられ、兼職禁止規定で{昭和電工}の社長を辞任させられるなか、身体に変調来たして、たびたび血痰、

日米開戦・1941=57歳 : 結婚式媒酌人つとめて帰宅したところ咯血、まもなく、没した。